

令和3年度「知事と市町長の1対1対談」(多気町) 概要

- 1 対談市町 多気町 (久保 行央 多気町長)
- 2 対談日時 令和3年8月6日(金) 11:00~12:00
- 3 開催方法 Web会議システムによるオンライン開催
- 4 対談項目1 国道368号の拡幅工事について
対談項目2 一般県道松阪度会線(土羽から野中間 2.5 km) 道路改築事業について
対談項目3 VISON周辺の渋滞対策に係る新たな道路整備について
対談項目4 DX推進に係る市町への支援について
対談項目5 三重広域連携スーパーシティ構想について
- 5 対談概要

対談項目1 国道368号の拡幅工事について

(町長)

勢和振興事務所庁舎の建て替えを、令和4(2022)年度から令和5(2023)年度にかけて行う予定です。この庁舎の前に国道368号が通っていますが、道路幅が狭く、歩道もない状況ですので、今回の庁舎建て替えに合わせて、着実に道路拡幅事業を進めていただきますようお願いいたします。

(知事)

国道368号は、緊急輸送道路に指定された、地域の皆さんの日常生活にとっても大切な道路ですが、道路幅員の一部が5.1mと狭く、路肩が確保できていないことから、大型車両同士のすれ違いなどに支障をきたしています。

令和3(2021)年度から、路線測量、詳細設計に着手します。勢和振興事務所から朝柄交差点までの延長約400mの区間において、車道幅員を5.1mから6.0mに、また、路肩を基準値どおりに、さらに、歩道幅員を1.4mから2.0mに拡幅したいと思っています。

令和4(2022)年度には、用地取得、道路改良工事に着手し、令和5(2023)年度の新庁舎の完成までに、改良工事の完成をめざして、用地取得など、多気町の協力をいただきながら進めていきたいと思っております。

対談項目2 一般県道松阪度会線(土羽から野中間 2.5 km) 道路改築事業について

(町長)

一般県道松阪度会線は、野中から^{なるかわ}成川までは工事が完了しています。その先の区間について、地権者の同意が得られたため、地元の自治会の要望するルートに基づいて、事業化の要望を行っています。

多気町内で既に進めて頂いている事業がいくつかありますが、地元住民が待ち望んでいる一般県道松阪度会線（土羽から野中間）道路改築事業の着手を強く要望します。

(知事)

多気町内の道路整備については、県道勢和兄国松阪線や国道 368 号の整備を進めています。このため、県道松阪度会線の事業着手の時期については、これらの進捗状況を踏まえながら、多気町と相談の上、検討していきたいと考えています。

令和 3（2021）年度については、ルートの検討を実施し、課題の抽出や整理など具体化に向けた検討を行っていきます。

対談項目 3 V I S O N 周辺の渋滞対策に係る新たな道路整備について

(町長)

令和 3（2021）年 7 月 20 日に V I S O N がグランドオープンしたことに伴い、翌日には大渋滞が発生しました。信号機の時間設定の変更によって、多少緩和がされましたが、根本的な解決のためには、新たな町道整備を行う必要があると考えていますのでよろしくお願いします。

(知事)

渋滞対策は、短期的な対策から抜本的な対策までさまざまな方策が考えられます。財源確保の方法も含めて、渋滞対策の専門家である県土整備部長や担当課にご相談いただけたらと思います。

対談項目 4 D X 推進に係る市町への支援について

(町長)

多気町では、令和 3（2021）年 4 月からデジタル推進室を設けてさまざまな行政サービスのデジタル化を進めています。そのような中、一番懸念されるのは、人材確保の面で、外部から人材登用を行っている市町もありますが、それだけでは不十分で、職員の資質向上が急務となっています。この点について、積極的に人材育成の支援をしていただきたいと思います。

具体的には、研修の実施、技術的な内容も含めて、市町職員が、気楽にアドバ

イスを受けることができるような窓口を設置していただきたいと思います。

また、システム改修等に、国の財政支援を得ることができるのか、不透明なところがあり、県と市町が強力で連携して、国へ財政支援を求めていければと思います。

(知事)

D Xの推進については、令和3(2021)年4月に「デジタル社会推進局」を設置し、局長には、公募により民間からの「最高デジタル責任者(Chief Digital Officer)」を配置したところです。

D Xのあるべき姿について、県民の皆さんや企業、市町などと一緒に考え、行動に移していただくための方向性を示すため「みえD Xビジョン」を策定したいと考えています。

また、D Xに関する相談を気軽にできるような一元的な窓口「みえD Xセンター」を設置する予定です。「みえD Xセンター」には、さまざまな領域の専門家や企業に参加してもらおう予定であり、技術的な内容も含め、市町からのより高度な相談や要望に対応できるような体制を整えていきます。

さらに、29市町と県による「三重県・市町D X推進協議会」を令和3(2021)年6月に設置しましたので、課題共有や解決に向けての意見交換等いただければと思います。

人材の育成については、現在、求める人材像と能力要件、具体的な育成カリキュラムの策定等を進めており、市町の職員の皆さんにも受講いただけるプログラムも検討しているところです。

また、国において、令和3(2021)年7月に「自治体D X推進手順書【第1.0版】」が公表され、この手順書に沿って、業務システムの標準化や行政手続のオンライン化等を進めていくこととなります。17の基幹系業務システムに対しては国の財政支援があるものの、付属又は密接に連携する業務システムに対しての財政的支援は決まっていないことから、国に要望していきたいと思います。

対談項目5 三重広域連携スーパーシティ構想について

(町長)

令和3(2021)年4月16日に三重広域連携スーパーシティ構想の提案書を提出しましたが、まだ決定されていない状況です。今回の提案概要は、グリーンフィールドであるV I S O Nを拠点として、ブラウンフィールドである自治体が地域に共通する課題解決のため広域に連携し、企業とも一体となって、A Iやビッグデータなどの最先端技術を活用し、地域医療やモビリティ、観光振興、エネルギー等地域の社会課題の解決をめざしています。

さまざまなデータを横断的に連携させ、利用者にとって利便性の高いサービスの提供と、地域のさまざまな課題可決に向け取り組んでいきますので、支援をお願いします。

(知事)

スーパーシティ構想について、私自身も、特区を所管する内閣府の地方創生推進事務局長と直接面談し、特区の指定にあたっては、適切に評価いただくことと、必要な規制緩和を進めてほしいことをお願いしてきたところです。

事務局長からは、「三重広域連携スーパーシティ推進協議会では、熱意とエネルギーをもって取り組んでもらっており、引き続き国と地方でいい流れを作っていきたい」と期待の言葉をいただきました。

また、複数の基礎自治体だけによる共同申請はこの提案だけであり、その面でも新しい取組です。県も三重広域連携スーパーシティ推進協議会にオブザーバーとして参加しており、これからも一緒に取り組んでいきたいと考えています。